

指定校番号	28032	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立宇品小学校	校長氏名	森川 康男	生徒指導主事氏名	原 幸子
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『宇品っ子集会』

取組のねらい

- ・ 上学年と下学年がペアでグループになり，交流を深め，よりよい人間関係を形成する。
- ・ 集団の一員として自分の役割を果たし，協力してよりよい学校づくりに取り組む自主的・実践的な態度を育成する。

取組の具体的内容 『自主・実践』

- 日時 平成 28 年 11 月 16 日 (水) 宇品タイムと第 5・6 校時
- 場所 各教室及び体育館
- 内容
 - (1) 学年で統一したテーマのものを準備する。
 - (2) 2 学年が同じ内容にならないように，学年間で相談しておく。
 - (3) 教育活動に合った創造的なものを考える。
 - (4) 事前準備で，学習内容に合うものは，国語，生活，総合，図画工作科などの，シラバスにある時数でカウントをする。

学年	テーマ	具体例(内容)【当日までの時数例】
1・2 年生	「おもちゃであそぼう」	やまのぼりかめさん，ぶんぶんゴマ，ほか手持ちおもちゃを作って紹介する。【時数：生活科，図画工作科，国語科，学級活動など】
3・4 年生	「チャレンジランキングゲーム」	空き缶積み，傘バランス，漢字パズル，ほか，タイムを計って競うゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動，国語科など】
5・6 年生	「スポーツゲーム」	ストラックアウト，ボーリングなど，体を使って取り組めるゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動，図画工作科など】
わかば学級	学級児童の実態に応じて	担任で相談する

- (5) 混雑しないように，1 グループ(6・7 人)が一斉に楽しめて，5 分以内で次の学級へ行けるように内容を考慮する。
 - (6) 教室ごとの準備・片付け・運営は，学級児童ですばやくできるように役割分担を細かく考えておく。
 - (7) 開始の放送までに学級でお店の準備しておく。
 - (8) ごみを出さないことを前提とし，リサイクルできるものを利用するなど，材料を集める。学校で処分できるものは各教室ダンボール 2 個までとし，持ってきた材料や作成したものは，各自持ち帰る。
 - (9) 学級でスタンプを用意しておき，スタンプ係も決めておく。
- 4 役割分担**
- (1) 全体の司会進行は，児童運営委員会が行う。
 - (2) 各学級のお店は，どの学年の人も楽しめる内容で，学年で話し合った上，学年の実態に応じたものを決定する。担任がお店の内容を児童運営委員会へ知らせる。(10 月 14 日(金)まで)
 - (3) 学級担任は学級内と担当場所(付近の廊下階段)の安全指導を行う。
- 5 進め方**
- (1) 開会式を自分の教室で行う。
 - (2) 開会式終了後，スタート放送で移動を開始する。
 - (3) 各教室でスタンプをもらって，地図を見ながら次の教室に進む。
 - (4) 放送を聞いて，前半・後半でお店の当番の人と回る人を替える。
 - (5) 放送は児童運営委員会児童が行う。
- 6 ルール**
- (1) グループで行動する。
 - (2) 他のグループと合体したり混じったりしない。
 - (3) 校舎内では右側を歩き，走らない。体育館周りは一方通行にする。
 - (4) 移動は，順路を守り逆走しない。
 - (5) 放送をよく聞いて行動する。
 - (6) 前半 45 分後半 45 分とし，前半後半の間 5 分で交代をする。(放送の合図で開始，終了)
 - (7) 終了 10 分前に学級の受付を終了する。
 - (8) 準備・片付けは児童全員で協力して行う。

(9) 出入り口は全学年で揃えて、混乱を少なくする。

7 「字品っ子集会」当日の教員の役割

(1) 教室移動のタイミング、前後半の移動の呼びかけをする。

(2) 各学級担任は、定刻に終了できるように、10分前には受付を終了することを指導する。

(3) 教室内や付近廊下の児童管理・安全指導をする。

(4) 放送・進行は、児童運営委員会担当職員が指導する。

(5) 担任外教員は、体育館周りや北校舎西出入り口周りを巡視する。

(6) 各学級担任は、5分以内で次の学級へ行けるように指導する。(渋滞すると全て回れないグループ出る。)



取組の課題・創意工夫 『ピア・サポート的交流活動』

【仲よく交流できるように】

事前指導

(1) グループ作り

○遠足のペアを活用してグループを作る。(遠足・平和の折鶴作りなどペア行動はしている。)

①ペア学年で仲よく回ることができるようにメンバーを確認しておく。

※わかば学級は個別の支援に応じて交流学級に入る。

②各学級の児童を、前半に回るグループと後半に回るグループの2つに分けておく。(上学年)

③2つか3つのペアと一緒に回るメンバー(6・7人)を決め、メンバー表を作成する。

④4・5・6年生の一緒に回るグループ毎に、事前打ち合わせ会までに班長と副班長を決めておく。

(2) 事前打ち合わせ会

○ペア学年毎に担任間で相談して10 / 17(月)～11 / 4(金)の間で、期日を決めて行う。

①グループの自己紹介をする。

②スタンプカードにメンバー全員の名前を書く。

③行くコースを確認する。(混雑を考慮し、同じ学級数字の教室を回るようにする。児童運営委員が順路を指定する。「例 6-1→1-1→3-1→4-1→2-1→5-1 の順番で行く」など)

事後指導

○集会後もグループ同士で仲よく交流できるように指導する。

取組の成果(効果) 『よりよいつながり』

・他の児童とコミュニケーションを図ることが苦手な児童が、興味・関心のある活動を実践することによって、学級の中での存在感や連帯感を持つことができた。

・上級生が下級生を思いやる気持ちを持つことができた。約1300名の児童が整然と行動している。

上学年と下学年が交流を深め、仲良く回ることができたか。98%以上

【アンケートより】

自分の役割を果たし、協力して取り組むことができたか。98%以上

今後の展開 『人間関係づくり』

・「子どもの人間関係づくり推進プログラム」について教職員が連携し、計画的な取組の推進を図る。

・協同学習の取り入れ方や方法を学年で研修し、実践内容を深める。

・行事取組の場面においてグループコミュニケーション活動を実施する。

他校へのアドバイス 『全校的指針』

・ピア・サポートを活性化するために、協力の価値を一人一人が認めて実践するといった全校的指針を持ち、相互性・信頼性に基づく人間関係を築くことが大切である。